

受領No.1474

ニューノーマル時代の人事管理： テレワークおよび兼副業が公正感に与える影響

代表研究者 西村 孝史 東京都立大学大学院 経営学研究科 准教授
共同研究者 西岡 由美 立正大学 経営学部 教授

Human Resource Management in the New Normal Era: The effects of Telecommuting and Side Businesses on Organizational Justice

Representative Takashi NISHIMURA, Tokyo Metropolitan University
Graduate School of Management, Associate Professor
Collaborator Yumi NISHIOKA, Rissho University, Faculty of Business
Administration, Professor



研究概要

本研究では、インターネット調査による3時点調査を実施し、以下の3点の課題を検証する。第1に、リモートワークと兼副業が公正感に与える影響である。なぜならリモートワークは、職場の人との物理的な断絶を生み、人々の孤独感を促し、勤労意欲の低下やストレスの増加をもたらす。しかし、兼副業は、社外の人との関わりが増えるため自らの処遇に正にも負にも影響を与えることが予想される。第2はリモートワークや兼副業が公正感を媒介して互恵的な関係性(ソーシャル・キャピタル)に与える影響を検討する。日本企業の組織的な強さの源泉は職場の互恵的な関係構築にあり、今般の場所や時間にとられない働き方と人事施策の変更は、日本企業の強さの源泉を弱めてしまう可能性がある。第3は、リモートワークを上司がいかに管理をするのか、その管理方法と効果に関する研究である。特にフィードバックの頻度、内容といったかかわり方が、リモートワークが公正感に与える負の影響を調整するというモデルを設定する。本研究では、組織的公正性、埋め込み理論および人事管理の理論枠組みを用いてニューノーマル時代の人事管理の束(Bundle)を見出すことを目的とする。